

1998.7.12

第 268 回

市響

市川市文化祭50周年

市川交響楽団

交響楽の午後

主催：市川市教育委員会 市川交響楽団協会
後援：千葉交響楽団協会

1998年7月12日 市川市文化会館



Concert for Violoncello
Dvořák and Orchestra
Symphony No. 7

Ichikawa
Symphony
Orchestra

1988.5.15

第268回 市響 ファミリー交響楽

アントニン・ドボルザーク

アントニン・ドボルザーク

1841年ネラホゼヴェス（現チェコ、当時オーストリア帝国領）に生まれる。ブラハのオルガン学校を卒業後、オーケストラのヴィオラ奏者として生計をたてる。34歳でブラームスが審査員を務めるオーストリア国家奨学金を獲得。その後スラブ舞曲集で成功を取める。1891年50歳でプラハ音楽院教授となり作曲を指導。1892年から1895年まで米国ナショナル音楽院院長。米国滞在中に完成された交響曲第9番「新世界より」、チェロ協奏曲はあまりに有名。1901年音楽家として初めてオーストリア貴族院（上院）議員に任命。1904年プラハにて没（62歳）。

「謝肉祭」(1891)

演奏会用序曲

チェロ協奏曲 (1894 - 95)

アレグロ Allegro

アダージョ マ ノントロポ Adagio ma non troppo

フィナーレ - アレグロ モデラート Finale - Allegro moderato

チェロ独奏 藤森 亮一

交響曲第7番 (1884-85)

アレグロ マエストーソ Allegro maestoso

ポコ アダージョ Poco adagio

スケルツォ - ヴィヴァーチェ Scherzo - Vivace

フィナーレ - アレグロ Finale - Allegro

指揮 野宮 敏明

ゲストコンサートマスター 根津 昭義

市川交響楽団

Ichikawa Symphony Orchestra

Ichikyo #268
Dvořák

Karneval
Konzertouvertüre
Op.92

Konzert in h-moll für
Violoncello und
Orchester
Op.104

Sinfonie 7 in d-moll
Op.70

チェロ独奏：藤森 亮一（ふじもり りょういち）

1963年京都生まれ。11歳よりチェロを始める。京都市立堀川高等学校音楽科を経て東京音楽大学に入学。1982年第29回文化放送音楽賞を受賞。翌年には第52回日本音楽コンクールチェロ部門で第1位。

1986年第21回東京国際音楽コンクール弦楽四重奏部門において斎藤秀雄賞を受賞する。

翌年の1987年にNHK交響楽団に入団。「若い芽のコンサート」では同交響楽団とハイドンの協奏曲を共演。

1990年ミュンヘンに留学、翌年帰国。

徳永兼一郎、上村昇、河野文昭、ワルター・ノータス、カリーヌ・ジョルジュアン、ピエール・フルニエ各氏に師事。

現在、NHK交響楽団首席チェロ奏者を務める他、モルゴア・クアルテット、ボア・ヴェールピアノトリオ、アンサンブルSAKRAなど幅広い分野に活躍。



指揮：野宮 敏明（のみや としあき）

1961年北海道生まれ。高校時代、全日本吹奏楽連盟より指揮者賞を受賞。

1985年玉川大学文芸学部芸術学科卒業。

指揮を荒谷俊治、福森 湘、ホルンを宮田四郎、ピアノを白石 准の各氏に師事。

これまで東京パシフィック管弦楽団、N響団友オーケストラ、日本アカデミー交響楽団を指揮。あわせて横浜シティオペラ、市川オペラなどにおいて福森 湘氏のアシスタント指揮者として研鑽を積む。また劇団四季のミュージカル「美女と野獣」の指揮や文化庁オペラ研修所、二期会オペラ振興会、日本オペラ振興会などの研究生の講師を務めた。

現在、管弦楽のほか、オペラ、ミュージカル、吹奏楽、合唱と幅広い演奏活動に加え、浦安シティフィルなどのアマチュアオーケストラや合唱団との演奏も精力的に務めている。



ゲストコンサートマスター

根津 昭義（ねづ あきよし）

昭和24年1月6日東京（葛飾区）で生まれる。3才よりヴァイオリンを始める。昭和42年東京大学に入学。翌昭和43年からの学生運動の中で、音楽の道に転身することを決意。昭和46年東京大学卒業後、翌昭和47年東京芸術大学に入学。昭和51年同大学卒業後、NHK交響楽団に入団、現在に至る。

山岡耕筈、田中千香土の両氏に師事。現在NHK交響楽団ヴァイオリン奏者、日本演奏連盟会員。

リサイタル、室内楽での演奏活動の他に、市川交響楽団での指導や後進の指導（Muse音楽教室）も積極的に行っている。また家族3人でヴァイオリン独奏、ピアノ独奏、ピアノ連弾、ヴァイオリン1台とピアノ2台による合奏と多彩なプログラムによるファミリーコンサートを毎年開く。（子供劇場、チャリティーコンサート、学校、幼稚園の音楽教室等）



チェロ協奏曲

Violoncello

福原 耕二

チェロ協奏曲のなかでもっともよく知られるこの曲は、私たちチェロ弾きが一度でも弾いてみたいと思う曲のひとつである。

私が初めてこの曲に出会ったのは、高校の部活でチェロを習い始めてすぐのことだった。よし、いつかはこの曲が弾けるようになってやろうと思い、無理矢理先輩からもらったソロパート譜は、その後現在に到るまで、私のバイブルとなっている。そしてこの三十年の間にやさしいところから少しずつ弾けるようになり、進歩のバロメータとなってくれた。難しいところは試行錯誤して指を考え、弾けるように試みてきたが、それでもなおまだ未だに弾けないところが残っている。弾けるようになりたいと思わせたいこの曲の存在が、いまままでチェロを続けられてきたエネルギーの源の一つであったことは確かである。

さてこのドボルザークのチェロ協奏曲は、チェロとオーケストラの絡み合いがまことに巧みにできている。そして美しいメロディの間にチェロ特有の高度なテクニックが多く取り入れられている。チェロはバイオリンと違ってエンドピンで床に置いて弾くことから、左手の自由度が高く、あらゆる位置に左手を置くことができる。そして高いポジションで弾くときに活躍するのが左手の親指である。これは親指の爪の右の腹で

弦を押さえ、これを位置の基準として他の指を押さえていくものである。これは最初は慣れるまでは結構痛い思いをしなくてはならない。チェロの弦の張りは結構強いので、しっかり押さえないといい音がしない。さらにビブラートもかけなくてはならないので、チェロを弾くことは、腕力も必要でそれなりに重労働ということはいえる。

第1楽章の長い前奏の間に、ソリストはその気持ちが高揚してくる。そしてソロのチェロは力強いアタックと速いビブラートと共に長調の主題で登場する。この特徴的な出だしは一度聴いたら二度と忘れられないであろう。そして、私がこの曲で最も好きなのは、第3楽章の最後、すべてが終わり、チェロが嬰への音を最弱音からクレシェンドし、口音にあがって思い切り打ち震える瞬間だ。ドボルザークがチェロのためにこの名曲を残してくれたことを、チェロ弾きの一人として、いくら感謝してもしきれないと思っている。

「謝肉祭」

Clarinet

吉野 智久

今回の演奏会は、メインに交響曲第7番、そして藤森氏を迎えてのチェロ協奏曲と、2曲のドボルザークの大曲に挑むことになった。なかなか大変なプログラムだと思っていると、なんと、もう1曲やるらしい。ここだけの話だが、「え？ 2曲でも十分にこなせるかどうか分からないのに、もう1曲やるの？」というのが正直な感想だった。一体何の曲をやるのだろうと思ったら、これまたドボルザークの序曲『謝肉祭』という曲だった。「謝肉祭ってどんな曲？」「ドボルザークにそんな曲があったの？」などという声が団員達の間から聞かれた。私もよく知らなかったので、図書館に行って調べてみた。それによると、ドボルザークは、渡米する直前に演奏会用序曲三部作『自然と人生と愛』という3つの序曲を作ったとのこと。この『謝肉祭』は、その第2部《人生》に当たるものだが、『謝肉祭』という題名には特別な意味は無いようだ。作曲は1891年7月28日～9月12日、初演は作曲者自身の指揮により1892年4月28日にプラハで行われたとのことである。先日、この曲の初めての練習が行われた。とても軽快で華やかな曲だった。これなら、聴きに来て下さった皆さんにも楽しんで頂けるに違いない。うちの子供も喜びそうだ。そうそう、ゲストコンサートマスターである根津氏のソロにも注目したい。

交響曲第7番

Fagott

古屋 文弘

ドボルザークといえば「新世界」が超有名ですが、演奏が良ければ、第7番もすばらしい交響曲であることがわかりいただけるはず。我々の責任は重大です。心して取り組みましょう。(但し緊張は禁物です)

第1楽章

最初から悲劇的ムードの漂う「短調」の楽章ですが、とにかく「単調」にならない注意深さと演奏そのものが悲劇的な結果を招かないような努力が要求されています。ドボルザークの楽壇デビューを助けてくれた大恩人ブラームスの傑作、交響曲第3番の初演を聴いたときの感動が脈打っていることを発見することもできましょう。「初め良ければすべてよし？」この楽章で失敗しないことがこの曲の成功のカギとなるでしょう。ホルンパートは本日も絶好調です。ヴァイオリンセクションの奮闘ぶりにもご注目下さい。

第2楽章

ソロや小人数の管楽器でゆっくりと静かに始まる楽章は、我々管楽器にとって、頭痛の種となります。演奏中は神経をすり減らし、その結果、成功しても失敗しても打ち上げでは思わず痛飲してしまい、二日酔いで欠勤となります。実に健康に良くない楽章です。ここ

ではヴィオラ奏者だったドボルザークのヴィオラへの精通ぶりがうかがえます。特にチェロとの愛のデュエット(?)のところを聴き逃してはいけません。真ん中より少し後ろのところ。ここのコントラバスのピツィカートも最高ですね。

第3楽章 スケルツオ

スケルツオとは「冗談」とか「戯れ」ですが、アマチュアはサボりでもしないかぎり、戯れながら演奏なんてできません。この楽章のチェコの民族舞踊「フリアント」という速い6拍子のリズムは、古くから3拍子や6拍子の伝統のない日本人にとって不得意科目といえます。巧くできれば踊りだしたくなるはずですが、そうでないときは、やはり演奏のせい。市響のリズム感の良し悪しが明暗を分けることになりそうです。

第4楽章 フィナーレ

交響曲の最終楽章はアマチュア・オーケストラにとって、あるときは「名誉挽回」のためのラストチャンスか、「敗者復活」を賭けた熾烈な総力戦と化します。しかし第3楽章までの失敗やミス(もしあったとしたら)の帳消しは不可能で、過剰な意識は自滅を招きます。この際、市響の誇る金管セクションとティンパニの爆発的なパワーに期待したほうが無難です。短調で始まったこの楽章ですが、後の傑作第8交響曲や名作第9番「新世界」の誕生を予感させるかのような力強い長調の和音で締めくくられます。

何よりも、演奏者諸氏の無事生還を祈ります。

チェロの楽しみ

今回は藤森先生の美しい音色を聴いていただいたところで、何となく知っているようで実はよくわからない、チェロのいろいろをお話ししましょう！



チェロ violoncelle<仏> Violoncello<独> cello<英> : 弦楽器の一つ。

楽器

歴史:16世紀にほぼ現在と同じ形でヴァイオリンが完成された後、わずかの間に同じヴァイオリン族¹に分類されるテノール楽器としてのチェロが現れる。その後18世紀に楽器の下に長さが調節できる針²が装着された。おかげで足で楽器を挟んだり左手で楽器を握り締めたりしなくてもよくなり、演奏がとてもしやすくなって旋律楽器としての土台をかためた。

原材料:木材(表板はトウヒかモミ、裏板や側板はカエデ、指板は黒檀)、スチール(弦)、糸、「秘密の製法で作られた」ニス、松やにを少々。

寿命:約300年といわれている。

聖なる人:アマティ³

楽譜:昔は通奏低音⁴ばかりだったが、18世紀になってから次第に独奏用として使われるようになった。チェロの栄光の歴史はこのころから始まる。

社会的な立場

住所:8/9ページ参照。様式によってはヴィオラと交代して中側に入ることも。中に入ると弾きにくくていやだな。

オーケストラの中でのステータス:あまり一般には知られていないことですがオーケストラの中には「鉄の規律」があり、楽器によって身分の高低が決まっています。一番偉いのはもちろんヴァイオリンでその首席奏者は「コンサートマスター」という特別な称号を与えられています。次に偉いのは第2旋律楽器とも異名を取るチェロです。そのあとヴィオラ、コントラバスと続き、木管、金管の順に人目に触れなく

なりだんだん楽器の名前もあやふやになっていきます。しかし、パーカッションやトランペットは出番は少ないものの重要なところで音楽を決定付けるような大きな音を出したり、旋律を吹いたりするので実質上はフルートやオーボエと同列と考える人も多いのです。このようにチェロは栄光の楽器なのです。

チェリスト violoncelliste<仏> Violoncellist<独> cellist<英> チェロ弾き<日> : チェロを演奏する人、チェロ奏者。

経験値:16歳から始めて40年という人もいれば、50歳から始めて〇年という人もいます。長く楽しめる楽器なのです。

性格:ひかえめ、謙虚だが芯がある。

好きな曲:なにはなくともドボルザークのチェロ協奏曲。「自分にはとてとても」と謙遜する一方で「いつかは一度」とみな思っている。

財政状態:楽器の「値段」は(どの楽器でもそうですが)ピンキリです。そもそもアマチュアオーケストラの奏者に楽器の値段を聞いてはいけません。このコンサートに奥様(あるいはダンナ、恋人、なんでもいいが)がご来場いただいている、「まあ!うちの主人ったら、タバコ代を1か月節約してチェロを買ったなんて言っていたけど、そんな値段じゃ買えないじゃない!」なんてことになるとコトなので、ここでは書けません。この場合は福原夫妻のように同族のオケの仲間を伴侶にすることで未然にトラブルを防止することも可能です。

チェロパートの特徴:みんな和気あいあいと楽しい雰囲気。本番当日のお弁当をパート全員が車座(くるまざ)になっ

*1 他にはヴィオラ。コントラバスはガンバ属という部類に属する。

*2 エンドピン

*3 イタリアの弦楽器の名工。この人がいなかったら今のチェロの地位はなかった。

*4 バロック時代の音楽速記法で記譜されるのはバス声部だけでそれが即興的に和音によって補われる。この最低声部を補うためにガンバ、チェロ、コントラバス、ファゴット、トロンボーンなどが用いられた。

「プルト？自然発生的に決まるよ。 困ったことないなあ」

市響チェロバート

て食べることが特徴。パート内の団結の強さを物語っています（一部パートからは「うらやましい」との声も）。ステージ上で座る場所（いわゆる「プルト」を誰と組むか）には殆どこだわり無し。「恥ずかしいからできるだけ後ろがいい」という控えめなご意見も。「プルト？自然発生的に決まるよ。困ったことないなあ（福原氏談）」

チェロってたいへん！

体力1(演奏)：弦楽器はそもそも木の薄板をはり合わせて作ってあるようなものなので、重量はさほどありません。しかし、楽器が大型化するにつれ演奏には大変な腕力があるようになります（福原氏の曲目解説参照）。

体力2(運搬)：本当は「運搬」にもとても体力がいるのです。実は運送にもっとも体力がいると思われるコントラバスや打楽器などは「大型楽器」としてオーケストラで運ぶ手筈を整えてくれたり、個人で運ぶ場合は自家用車で運ぶという「常識」が一般化しています。この場合は「運搬」といってもホールの搬入口からステージ上まで持っていただけですみ

ます。打楽器に至っては楽器に車輪がついているので「転がしていく」ことができます。しかし、チェロ以下は「自分で運べる楽器」という常識が定着しているので自分で運ばなくてはなりません。ヴァイオリンやフルートならいざ知らず、運べるといったってチェロ奏者は硬くて重いグラスファイバー製のケースに大事な大事な楽器を収めているので、総重量は結構なものになります。自家用車で運ぼうと思っても、数台しかない主催者用の駐車スペースは自家用車で楽器を運び込むコントラバスやチューバ奏者の車でいっぱいです。こうして、チェロ奏者は本八幡から文化会館までの遠い道のりを、楽器を担ぎながらやってくるというわけです。

体力3(周囲の目)：JRにチェロと一緒に乗っていると、周囲の人の目が「あのひと、チェロ弾きだ」「優雅な趣味をお持ちでいいわね」と語っています。チェロ奏者として嬉しい一瞬です。最近は自動改札機が普及したためチェロを担いで改札を通り抜けるのは一苦勞ですが、駅員さんも「ご苦勞様です」という顔つきで通してくれます。

これがコントラバスとなると雰囲気は一変します。編集部独自の調査によると、コントラバスを抱えてJRに乗車した場合、周囲の乗客からは「なんであんなでかい楽器を持って混んでいる列車に乗るのか」という非難のまなざしを投げつけられ、駅員に呼び止められた挙げ句「大型荷物は荷物用の切符を買ってください」と冷たく言い渡される始末。このへんがチェロが栄光の楽器として世間に認知されている所以ですね。

なぜチェロを弾き始めたのか：「カザルス（パブロ・カザルス。カタルーニャ出身のチェロの大家）の影響で」「楽器を買ってしまったから」「弟がやっていたヴァイオリンを私もやりたいと言ったらお姉ちゃんはチェロになさいと言われたから」「チェロの音が好きだから」「自然な形で演奏できて他の人の音がよく聞き取れるから」「チェロはココロ安定する楽器だから。ヴァイオリンは（音が高くて）キンキンするし、コントラバスは低すぎる、ヴィオラは挟まれてフラストレーションがたまる。」なるほど。

市川交響楽団

市川交響楽団・本日の出演者

団長
 村上 正治
副団長
 横田 行雄
幹事長
 演奏会委員会委員長
 時田 雄
インスペクター
 運営委員会委員長
 福原 耕二
コンサートマスター
 福原 祥子
事務局
 半藤 嗣人

テューバ
 ♪ 谷口 浩

トロンボーン
 五十嵐じゅん
 佐野 義人
 古屋 義和
 ♪ 藪崎 裕至

トランペット
 一樹 泰一
 新井本昌宏

ファゴット
 金坂 哲
 ♪ 菅原 斉
 古屋 文弘

オーボエ
 荒井 淳
 ♪ 二村 直子
 山地 順子

クラリネット
 井垣 貴嗣
 一瀬 直美
 多田 準也
 時田 雄
 ♪ 吉野 智久

フルート
 ♪ 木村 純一
 木村真諭紀
 高橋 千裕

ティンパニ & 打楽器
 岩橋 正治
 谷口 仁美
 ♪ 都筑 裕
 森本 太郎



ハープ
 小橋 ちひろ

ヴァイオリン I
 稲葉美佐子
 上田佳津子
 原剛介
 亀井玲子
 島原千晶
 鈴木薫夫
 高田賀甲
 竹内匡
 永田伸雄
 二宮亜希子
 福原真知子
 本田山和子
 松田富美子
 横岡一郎
 吉渡 昭子

ヴァイオリン II
 石本 恵理
 鎌田 真貴
 河村 智行
 木本 幸子
 沢田 健之
 沢田 紀子
 鈴木 陽子
 須永 恒雄
 竹内 まり
 堂本 祐司
 根守 弘和
 久田 しげ子
 福原 崇
 溝田 範子
 村上 葉子
 村田 康代
 ♪ 横田 佐貴 絵

♪ パートリーダー・パートトップ

Ichikyo Season 1998-1999

市川交響楽団協会主催の演奏会はすべて入場無料で行っております。
入場整理券をご希望の方には、各演奏会の約1カ月前から市川市文化会館ほか市内文化施設で配布しております。また市響インターネットホームページからもダウンロードできます。

7/31- アマチュアオーケストラフェスティバル金沢大会 (金沢市)

9/9 音楽ギャラリー (市川公民館)

10/9-10 国民文化祭大分大会 (大分市)

11/8 千葉県生涯学習フェスティバル (幕張メッセ)

11/14 音楽ギャラリー (市川公民館)

12/20 第271回市響 ファミリー交響楽 (市川市文化会館)

1999 2/14 「市川・第九」 (市川市文化会館)

3/7 リバーサイドフェスティバル'99 (かつしかシンフォニーヒルズ)

3/28 第273回市響 室内楽の午後 (市川市文化会館)

ホルン
近藤 利昭
嶋村 恒夫
藤井 茂司
山内 正晴
山本 恭子

コントラバス

池田 和正
上村 啓介
菊池 克彦
鈴木 重則
長谷川 隆子
宮本 彰
村上 信乃

チェロ

倉沢 由和
沢田 恵子
瀬川 清
中村 公一
根岸 朋子
野中 能久
日澤 優
福原 耕二
山口 勝規

ヴァイオリン
相原 美音
浅野 さとみ
内田 綾美
柿沼 ひとみ
斎藤 十一郎
相馬 正典
奈良 弘子
原口 博司
星 乗昭
水野 桃子
村上 賢一
渡部 玲子

ゲストコンサートマスター
根津 昭義

コンサートマスター
福原 祥子

当市川交響楽団(市響)は、いろいろな職業をもつ幅広い年齢層の団員で構成されており、アットホームで楽しく和やかでかため、
♪ ほんとうみがよいことをモットーとしている市民オーケストラです。
♪ 社会人の方で、オーケストラで演奏経験のある方、前にやっていたずっと弾いていないけどまた始めたいな、こちらに引っ越してきたのだけどいいオケないかな、といった方は当市川交響楽団にぜひご参加ください。

市川交響楽団協会には、歌を歌いたいだけでなくという方に市川混声合唱団、行徳混声合唱団、いや私はブラスバンドがいいなという方には市川交響吹奏楽団、高校生以下の学生の方には市響ジュニアオーケストラがございます。こちらにもぜひどうぞ。

1999年8月には、わたしたちが幹事団体となって、全国アマチュアオーケストラ団員が集う「アマオケフェスティバル市川大会」が開催されます。

見学や入団ご希望の方は、下記あてお問い合わせください。

(弦) 福原 TEL 043-279-2026

(管・打) 時田 TEL 03-3600-0063 / FAX 03-3600-0293

市響インターネットホームページ

<http://plaza28.mbn.or.jp/~ichikyo/>